

平成 26 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

研究領域名	地殻ダイナミクス ー東北沖地震後の内陸変動の統一的理解ー
領域代表者	飯尾 能久（京都大学・防災研究所・教授）
研究期間	平成 26 年度～平成 30 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、現在も継続している 2011 年東北太平洋沖地震の余効変動について総合的に調査・モデリングを行い、地殻の応力場の推定や粘弾性特性を解明することを目的としている。応力降下量や滑り量が判明している当該巨大地震に対する地殻の応答を調査することにより、これまで不可能だった地殻の応力場の絶対値が推定でき、ひいては粘弾性特性や構造、運動について定量的な解明が進むものと期待される。数百年に一度の規模の巨大地震が誘起した希少な現象を捉える研究であり、できるだけ速やかな着手が望まれる。本研究領域から得られる成果は、将来の地殻変動現象の予測能力の向上につながるなど、社会的な波及効果も高いと考えられる。</p> <p>計画研究には、地震学・構造地質学・地球物理学・レオロジー・岩石学・水理学などの分野の研究がバランスよく配置され、全国から研究者が参画する構成となっている。組織の長や大型研究プロジェクトのリーダーの経験を有する領域代表者の下に、各分野の中堅クラスを中心に力量ある研究者を集めている。総括班においては、適切なマネジメント体制が設計され、集会開催、共同観測や広報等の役割分担が考慮されており、堅実な推進が期待できる。既存の観測網や設備も有効に活用した研究の推進が望まれる。</p>